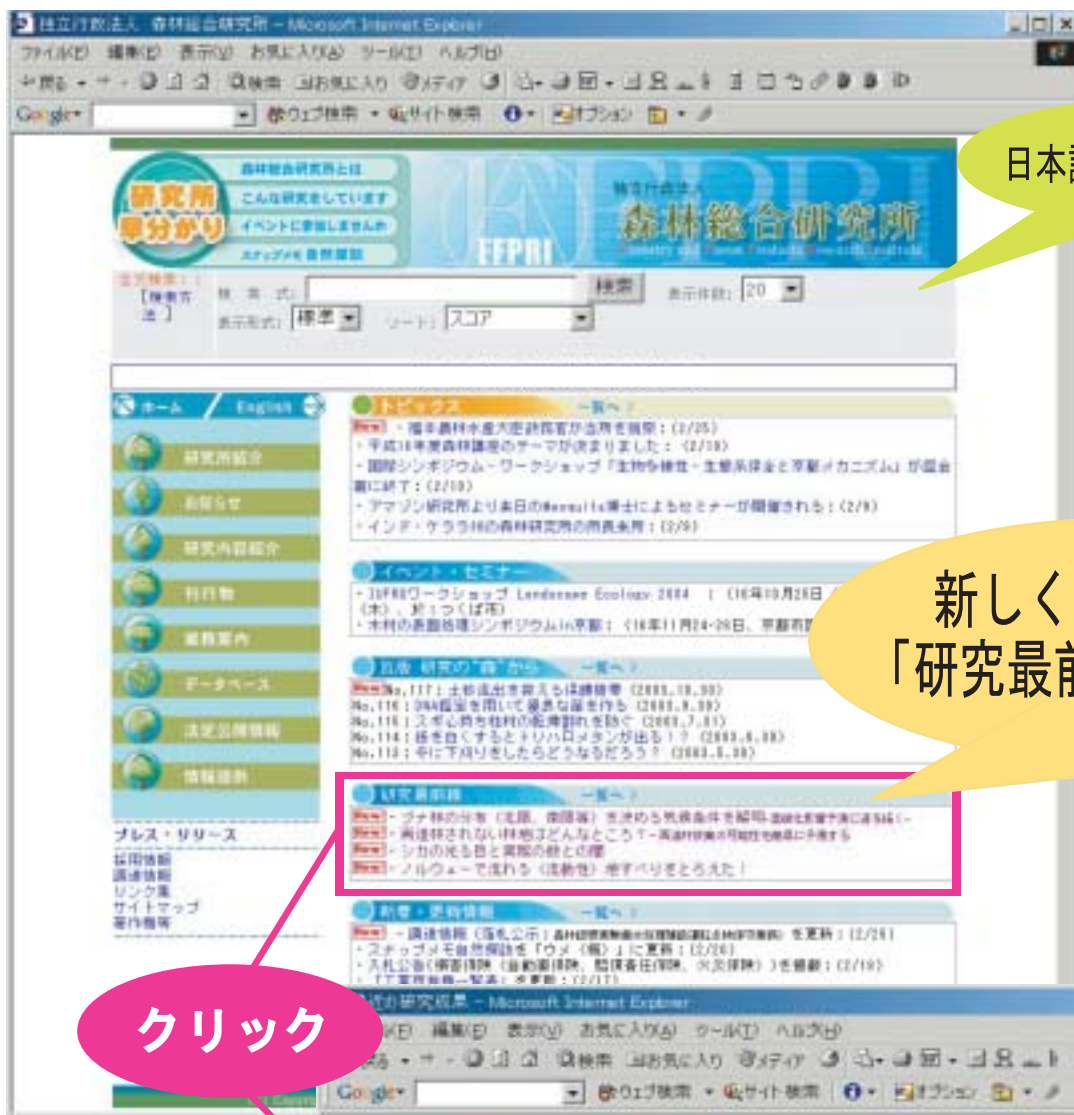


日本語トップページ

新しく開設された
「研究最前線」コーナー

クリック

最新発行の論文を
わかりやすく紹介



主要学術誌投稿論文（平成15年度）	
ブナ林の分布（北限、南限等）を決める気候条件を解明・温暖化影響予測に道を拓く・	
論文名	Climatic controls on distribution of <i>Fagus crenata</i> forests in Japan (ブナ林の分布を規定する気候因子の検出)
著 者	根井智哉(京大研究支援協力員)、八木慎範、中谷友樹(立命館大学)、田中達行、村田圭
掲載誌	Journal of Vegetation Science (植生科学雑誌、スウェーデン) 15巻1号、2004年3月
内容紹介	ブナ林の分布を規定する気候因子を分布モデル(分類樹解析)を用いて解析し、分布確率を示す潜在分布マップを作成した。全国の各1キロメッシュにおけるブナ林(23,000メッシュ)の有無と気候条件をデータベース化し、解析に用いた。予測精度は91%と高かった。ブナ林分布への気候因子の貢献度は寒湿制限水量、雨かき度の指数、越冬月最低気温、暖湿制限水量の順に高いことが判明した。この成果は、地球温暖化がブナ林へ及ぼす影響を予測する足掛かりとなるものである。
再造林されない林地はどんなところ？－再造林放棄の可能性を簡易に予測する－	
論文名	Characteristic Differences of Non-Reforested Lands Compared with Reforested Lands in Kanamata, Kyushu (熊本県における再造林地と比較した再造林放棄地の特徴的差異)
著 者	野田剛、林隆秀
掲載誌	森林総合研究所研究報告380号、2004年3月
内容紹介	熊本県における再造林放棄地804箇所を含む1432箇所の伐採履歴データから、こうした放棄地の発生には林種要因と不在林性が顕著に関連することも認め、その事前予測モデルを作成した。
シカの光る目と実地の森との関	
論文名	距離標本法によるニホンジカの密度推定
著 者	小泉通、矢部恒品、桂栗安喜・井上晋(九州大学)
掲載誌	九州森林研究57号、2004年3月
内容紹介	夜間シカに照明を当てると目が光り、頻度を数えることが出来る。しかし、光る目の数は反照率、発見率により実数より少ない問題があった。これを補正するため新しく開発されたBucklandらの距離標本法を当てはめたところ、より実数に迫ることが判明した。九州大学宮崎地方調査林では13.3~28.8頭/km ² と、シカが高い密度で生息していると推定された。
ノルウェーで流れる《流動性》地すべりをとらえた！	
Displacement properties of landslide masses at the initiation of failure in quick clay deposits and the effects of antecedent and	